情報の提供

◇◇ 第9回講習会 リポート ◇◇

小 汀 政 徳*

I. 情報の提供の背景とその方法

ここ数年文献情報の量が急激に増加してきたことは周知の事実である。これに伴って学術文献の処理と、必要とする情報資料を研究者等利用者側から、図書館員や情報担当者にできるだけ早く整備してもらいたいという要望がたかまっている。それというのも利用者側からすれば、①各種文献を調査する時間がない。②すべて必要と思われる文献が自分の手もとに網羅的に収集、入手することが困難になってきたし経費及び労力という問題でということが上げられる。

これを情報資料提供者の側から考察してみると、我々の基本的な姿勢は①まず何のために情報を提供するのか、②相手が要求しているのは具体的にどのようなものであるかということの判断である。従って提供者と利用者の接点に於いて、図書館の資料の貸出、閲覧展示、回覧等の毎日の業務方法以外に reference work がある。情報提供の方法としてその他に相互貸借、タイトルリストによる提供、コンテンツシートによる提供方法、目録による提供、Index類 abstract類による資料の提供、その他翻訳、複写、年報等出版による提供方法が行われている。しかしこの内で active な Reference work が一番遅れている問題であり、又情報文献の増加に対処するには一番早く解決を迫られている問題であると思う。

II. Referencer

Reference work を論ずる以前、研究員等資

料利用者が図書室は如何なる情報提供を行っているかよく知られていないことが多い、又図書室側として個々の研究者が現在いかなる研究しているかということを網羅的に知るとは不可能である。研究報告等でどのようなテーマを研究しているかということは調査できるが、その個々についての専門的知識を追うことは時間的にも不可能だ。このようなことが日本専門図書館に於いて未だ Reference work が充分図書室に任されない土壤があるといえそうである。しかし、MEDLARSのような機械文献探索の方法がいやおうなしに我々に押しつけられると、それに対していかなる態度で臨むかという姿勢を決めなければいけない。

現在 Special Librarian 又は documentalst と呼ばれる情報処理者の養成が叫ばれている。筆者は Library に勤務する以前、実験室にいたときの経験より、Referencerは次のことの充分留意すべきだと思う。

①利用者の意向を充分に把握すること。

Special Librarian or documentalst に要求されるのは幅広い専門的知識である（特に製薬会社の場合化学、薬学、医学までにその範囲が及ぶ）。ところが情報利用者が求めているのはある領域のごく一部分のことを深く研究していることが多い。そこで考えられることに提供した情報が利用者の真に求めているものかということである。研究者にとって自分が真に必要なとした情報というものは大変有難いものであるが、わずかに的を外れている information は机上に積み上げられるか、

* Masanori OBAMA 塩野義製薬 KK

ゴミ箱行がオチであり、時には不快感さえも与える結果となる。(これは専門的知識の未熟な段階に当然考えられる性質のものだ)調査段階に於いて依頼者と充分意見を交換することが大切だ。

②Terminology

文献探索が早く正確に進行するのは Special term を熟知している度合によるといっても過言でないと思う。日常 Science, nature, Naturwissenschaften, usw. の general な journal を熟読して Scientific Topics を豊富にすることも一対策であろう。又各国の各種学会誌を読んで論文形式を研究することも Terminology の知識を増加させると思う。

③Reference Tools

依頼された調査事項に対して早く処理することは技術の一つである。Reference Tool として用いられる Index 類, Abstract 類の構造, その引き方を熟知するという事は当

然の義務である。それらの構造は年々修正されることがあるので充分注意する必要があると思う。

III. 医学薬学図書館講習会への期待

今年の講習会は医学の Reference work について主に実施されたが, medical terminology 各書誌学の講義を後半の Reference work に役立つよう結びつけて行われたらもっと効果があったにちがいない。medical terminology の講義は時間の都合もあったかも知れないが余りに羅列的に終わってしまった。term というものは早期に覚えらるものでないが各書誌学の中に Librarian として必要な語はこういうものだとか, その分野に於ける権威ある書誌はこういうものだというような解説があれば講習会の講義科目との関連性がもたれて意義あるものになったと思います。

DEWEY 17—D. C. 第 17 版出版

DEWEY Decimal Classification and Relative Index

Edition 17 in 2 Volumes

1965, 2153 pages (Forest Press, Inc., N. Y.) <近日入荷> 概価 ¥ 13,500

図書分類史上不朽の名を伝える Melvil Dewey の Decimal Classification (略称 D. C.) は 1876 年初版を発行以来, すでに 16 版を重ね, いわゆる標準分類表として, 世界的に利用されていますが, 今回待望の第 17 版が出版され, 近日入荷, 発売されます。新 17 版は 1958 年出版の第 16 版を増補改訂したもので

- 1) 第 16 版への追加, 注釈等の新版書への収録
- 2) 新しい主題の挿入と展開
- 3) “心理学”の項の全面的改訂
- 4) Form Division に代る Standard Subdivision Table の充実
- 5) 地理区分のための Area Table の新設
- 6) D. C. の最大の特長である Relative Index (相関索引)の全面的な新編集などが, 大きな特長として挙げられます。

図書館業務の最も基本的なツールとして, D. C. を使用している図書館はもとより, 大学図書館, 公共図書館, 専門図書館などにぜひお備えのほどおすすめいたします。